

平成21年12月18日

五小の風景 No. 9

五日市小学校長 国政 直文

感謝の気持ちを

今年もあと10日余りとなりました。1年は早いものですね。今年はこのことをしてみよう、あんなことをやってみようと思うのですが、毎年この時期になると、何も変わっていない自分がかたがたしてしまいます。来年こそは何かを成し遂げたいと思っている今日この頃です。

さて、本校には屋外に古いトイレがあります。屋外トイレということで、なかなかきれいになりません。子ども達も懸命にそうじをするのですが、汚れもひどく、思うようには効果を上げることができていませんでした。気になっていた場所でした。ところが、ある日、これまでとトイレの様子が少し違うという声がありました。そして、その後すぐに、この屋外トイレを定期的にそうじしてくださっている方がいらっしゃることを知りました。おかげで、屋外トイレがとてもきれいになっていますし、子ども達もそうじがしやすくなっています。もう気がついていたら人もいたのかもしれませんが。

しかし、私は、うかつにもその日まで、全く気がついていませんでした。しっかりと校内のことを把握していない自分を反省しました。

そうじをしていただいていた方たちは、本校の保護者の方々に、学校のためになればという気持ちから、自発的に屋外トイレのそうじを始められたのだそうです。このように人知れず、こつこつと学校のために活動をされている方がいらっしゃるということを、私は是非、皆さんに知ってほしいと思い、今回その方々の了解を得て、紹介をさせていただきました。本当に頭が下がります。

このように、私達が知らない所で、知らないうちに、学校のために活動されている方が何人かいらっしゃいます。たとえば、正門前の池のそうじは、本校のお父さん方の力によるものです。また、玄関前に飾ってある門松もボランティア；子ども・地域 応援隊の方々（本校のお父さん達が加入されている）によって作っていただいたものです。

正門前の池は水がにごっていて、中で泳いでいる鯉の姿もよく見えない状態でしたが、今でははっきりと鯉の泳いでいる姿を目にすることができます。また、玄関前に飾っていただいた門松により、いつでもお正月が迎えられる状態になっています。最近の子ども達は、門松を見る機会が少なくなっている中で、こうして飾っていただいたことは、とても有難いことです。

こうした地道な活動をされている方々への感謝の気持ちを、私達大人そして子どもみんなが持ちたいものです。

「感謝するに値するものがないのではない。感謝するに値するものを、気がつかないでいるのだ。」(中村天風)の言葉にあるように、感謝すべき行動に自分自身が気がつかないかと思えます。自分の心のセンスが問われるところではないでしょうか。

人間は一人では生きていけません。今こうして生きていることができるのも、多くの人達の支えがあってこそです。自分自身の1日を振り返ってみるとよく分かります。

今日こうして食事をとることができるのは、仕事をするところ、勉強することができるのは、遊ぶことができるのは・・・等、だれのおかげなのか。

1年のしめくくりの月である12月に、感謝の気持ちについてご家庭で話題にさせていただけたらと思います。

1年間、本校教育に対しまして、ご理解ご協力を賜り、誠に有難うございました。新型インフルエンザの流行で大変ご迷惑をおかけしました。この影響はまだまだ続くと考えられます。来年も何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願ひします。よいお年をお迎えください。

